

# 日本都市社会学会ニュース

NO. 102 (2015.11.20)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学教育学部・山口恵子研究室内

e-mail: usocio@urbansocio.sakura.ne.jp fax: 042-329-7429

(振替口座：00140—4—703976) URL：http://urbansocio.sakura.ne.jp/

※事務局が移転しました。

## 会長就任にあたって

広田 康生 (専修大学)

2015年9月12日の日本都市社会学会第33回大会「総会」で(開催校：静岡県立大学)、日本都市社会学会会長に選出されました。このような大切な役割に自分が相応しいのかを悩み戸惑いながら、責任の重大さを痛感しております。皆様のお力を借りつつ、少しずつでも歩んでいくしかないと思っております。

谷富夫前会長からの引継ぎ事項は多々ありますが、学会として最も大きな引継ぎ事項は、前会長の就任挨拶にありましたように、やはり「都市社会学の伝統」「都市社会学のアイデンティティ」「都市社会学の可能性」(これは町村前々会長の就任挨拶にもありました)をどのように受け止めながら、学会として、あるいは会員の皆様の創造的で個性あるご研究につなげていくか、ということだと思います。谷前会長は、鈴木廣初代会長の「都市社会学のパラダイム革新」「低成長時代のコミュニティの可能性」の言葉を引きながら、自らの方向性を改めて考えようとされました。私個人の場合で言えば、初期シカゴ学派のモノグラフそしてその現代的な研究スタイルの展開を見据えながら「小さな事例に、全体の問題を解く鍵をいかに発見できるか」という都市社会学的方法論の可能性や「下からの都市論」の可能性を考えるというテーマ(これらは奥田道大の終生のテーマでもあったと個人的には考えます)をどのように受け止めていくのかということかもしれません。

もちろん前記のように会員の皆様各位が、「都市社会学の伝統」や「可能性」や「アイデンティティ」に思いを馳せながら独自の創造的な研究を展開されているのが現実であります。その「受け止め」の仕方は多様で、個性豊かで、それが日本都市社会学会の独特の雰囲気やアイデンティティ、研究への包容力と厳しさを作り出していると推察します。

私に与えられた役割の一つは、会員の皆様のこうした「問い」を自由に、多様に突き詰めていく「場」の充実に、微力ながら努力することであると考えます。この役割は、縁の下での小さな仕事の積み重ねに尽きると思います。会員の皆様、理事の皆様、事務局の皆様のご意見を伺いながら、本当に微力ですが全力を尽くす所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。

## 第33回大会の報告

徳田 剛 (聖カタリナ大学)

日本都市社会学会第33回大会は、2015年9月12日(土)、13日(日)の2日間、静岡県立大学谷田キャンパスにて開催された。両日の参加者数は延べ人数で91名(うち非会員6名)という盛会となった。大会1日目は4つの自由報告部会とシンポジウム(「震災をめぐる土着・流動とコミュニティの再生」)、2日目は2つの自由報告部会とテーマ部会(「都市空間の再編とジェントリフィケーション」)、テーマ報告部会(「都市下層研究の現代的展開」)というラインナップであった。今回は自由報告の発表希望が多くスケジューリングに苦慮されたことが総会で担当理事より報告されたが、各部会・シンポジウムとも内容の濃い報告と活発な質疑が行われた。

さて、奇しくも本大会の開催日は東日本大震災の発生からちょうど4年半のタイミングであった。これからの時期は「発災から5周年」というメモリアルに向けて、被災地内外で各種イベントが目白押しの喧しい半年となるだろう、と想像する。

1日目の災害に関するシンポジウムの中で、討論者より「災害研究に社会学者が関わるこの意味はどこにあるか」という興味深い問いかけがあった。報告者からの応答の中で、「(理系の)ハード面に取り組む研究グループは、被害状況などを一気に調査して成果発表を行い、報告書を出した時点で撤収していく」という言及があったが、これは実によくわかる話である。大災害の後には膨大な研究予算が付き、3年や5年の経過とともに期限が来る。行政の施策も同様で、「2015年度末」を期にどれだけの「特別な」予算や取り組みが終息させられてしまうか、計り知れない。

そうした中で、被災地研究における社会学者のレゾナードールは「中長期的なスパンで被災地に関与し続けること」にある、という当日の議論に大きく同意するとともに、もう一步踏み込んで「発災から5年、10年と経過する中で初めて見えてくる問題をキャッチすること」を挙げたい。以前に、師である岩崎信彦氏とともに筆者が関与した阪神淡路大震災の被災地域を対象とした質問紙調査の中で、「震災でケガや後遺症を負った人」の苦況を浮き彫りにすることができた。震災発生から10年を期に開催されたあるシンポジウムでなされた調査結果の発表に対し、ある当事者の方から「心ではなくて体の後遺症について公の場で初めて触れていただいた」という言葉が寄せられ、マスコミや被災地の市民団体の協力を得て「震災障害者」の自助グループの立ち上げへとつながった。実に、発災から12年目のことであった。

東日本大震災の被災地でも、今後さらに「記憶の風化」や震災への関心の低下が嘆かれるようになるだろう。そうした中で、一人でも多くの社会学者が被災地に関わり続け、時間とともに生じてくる諸問題へのアンテナを張り、実態の把握と社会への発信をするという大切な「役目」を遂行し続けてほしい、自らも微力ながら関わっていかねば、と本大会の一連の災害関係の研究発表を聞いて気持ちを新たにされた次第である。

## 総会の記録

総会は、大会1日目の9月12日(土)、下記の次第にそって行われました。

1. 開会の辞 (鯉坂学 常任理事)
2. 会長挨拶 (谷富夫 会長)
3. 開催校挨拶 (高畑幸 会員)
4. 座長推挙 (早川洋行会員を選出)
5. 諸報告
  - (1)2014-2015 年度理事会報告  
二階堂裕子事務局担当理事より、2014-2015 年度の理事会に関する報告がありました。
  - (2)2014-2015 年度企画委員会報告  
横田尚俊企画委員会委員長より、2014-2015 年度の企画委員会活動についての報告がありました。
  - (3)2014-2015 年度編集委員会報告  
稲月正編集委員会委員長より、年報33号の編集作業状況、J-Stageへのアップロード作業状況、年報34号の投稿募集について、それぞれ報告がありました。
  - (4)国際交流委員会報告  
文貞實委員より、韓国地域社会学会との交流についての報告がありました。
  - (5)社会学系コンソーシアム担当報告  
高木恒一理事より、社会学系コンソーシアム担当の活動について報告がありました。
  - (6)新入会員紹介  
二階堂裕子事務局担当理事より、新入会員14名の紹介があり、全員拍手をもって承認されました。

## 6. 第9回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会報告および授与式

渡戸一郎学会賞選考委員長より選考過程および結果の報告があり、園部雅久著『再魔術化する都市の社会学——空間概念・公共性・消費主義』（ミネルヴァ書房 2014年10月）を第9回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品とすることを決定しました。

## 7. 議事

(1)日本都市社会学会賞（磯村記念賞）内規・選考委員会細則および若手奨励賞内規の改正について

渡戸一郎学会賞選考委員長より、日本都市社会学会賞（磯村記念賞）内規・選考委員会細則、および若手奨励賞内規の改正について提案があり、承認されました。

(2)2014年度決算および監査報告

二階堂裕子事務局担当理事から2014年度決算についての報告、次いで大谷信介監事から監査報告があり、承認されました。

(3)2015年度予算案承認の件

引き続き二階堂裕子事務局理事から2015年度予算案についての説明があり、承認されました。

(4)役員選出の件

1)選挙管理委員の推挙

谷富夫会長より、大倉健宏会員、木田勇輔会員、高木竜輔会員、難波孝志会員、山本崇記会員を選挙管理委員に推挙するとともに、難波孝志会員に選挙管理委員長を委嘱することが提案され、承認されました。

2)会長選挙

役員選出規定第1条に基づき投票が行われ、会長が選出されました。投票結果は以下のとおりです（敬称略）。

広田康生 35票（次点：玉野和志 13票）

3)理事選挙

役員選出規定第3条および第5条に基づき投票が行われ、全国区4名、地方区4名の新理事が選出されました。投票結果は以下のとおりです。

全国区（4名）玉野和志 26票、高木恒一 21票、渡戸一郎 17票、後藤範章・浅川達人 15票（なお、決選投票の結果、後藤範章 34票、次点に浅川達人 30票）

地方区（各地区1名）

北海道・東北地区 高木竜輔 20票（次点：内田龍史 19票）

関東地区 浅川達人 27票（次点：浦野正樹 10票）

中部・関西地区 早川洋行 12票（次点：黒田由彦 9票）

中国・四国・九州地区 西村雄郎 17票（次点：横田尚俊 16票）

4)監事選挙（2名）

役員選出規定第3条に基づき投票が行われ、新監事が選出されました。投票の結果は以下のとおりです。

浦野正樹 12票、横田尚俊 8票（次点：大谷信介 4票）

(5)新事務局について

谷富夫会長より、事務局をノートルダム清心女子大学二階堂裕子研究室から東京学芸大学山口恵子研究室へ交替することが提案され、承認されました。

(6)次回大会の件

谷富夫会長より、2016年度の大会（第34回大会）を2016年9月10日（土）、11日（日）に、佛教大学で開催する旨の報告があり、承認されました\*。また、大会開催校を代表して佛教大学の近藤敏夫会員より挨拶がありました。

\*来年度の大会は、9月3日（土）、4日（日）に変更いたします。ご注意のほどお願いいたします（2015,12,14事務局追記）。

## 8. 閉会の辞（稲月正 常任理事）

## 2014年度決算報告および2015年度予算

### 2014年度決算報告 (2014年4月1日～2015年7月31日)

収入				支出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	30,000	26,000	13名	消耗品費	40,000	0	
学会費	1,205,000	1,794,216	15年度 一般:148名、学生16名 14年度 一般:86名、学生6名 13年度 一般:18名、学生4名 12年度 一般:8名、学生:0名 その他不足分等	通信費	200,000	140,799	
広告収入	40,000	25,000		ニュース印刷費	100,000	96,984	第99号(350部)・100号(350部)・101号(450部)
雑収入	20,000	45,105	複写使用料	年報印刷費	500,000	453,600	第32号(400部)
年報販売	100,000	104,400	1,900円:36冊、2,000円:18冊	大会開催費	100,000	100,000	第33回大会(静岡県立大学)
編集委員会残金	24,726	26,248	13年度分	役員・委員会費	350,000	113,116	役員・委員旅費補助
				事務局費	300,000	324,465	事務局員手当、アルバイト代、HP管理費等
				学会賞費	20,000	15,384	賞状等
				企画委員会費	160,000	78,846	非会員旅費・非会員謝金
				編集委員会事務局費	50,000	32,145	
				国際交流費	100,000	163,822	韓国出張費(4名)、学会大会時の通訳料等
				震災関係特別委員会	100,000	0	
				社会学系コンソーシアム	10,000	10,000	
				名簿作成費	100,000	89,640	
				予備費	2,374,456	0	
繰越金	3,084,730	3,084,730					
計	4,504,456	5,105,699			4,504,456	1,618,801	

次年度繰越金 3,486,898

### 2015年度予算案 (2015年8月1日～2016年7月31日)

収入			支出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	40,000	文具、封筒等
学会費	1,205,000	一般170名、学生25名	通信費	200,000	
広告収入	40,000		ニュース印刷費	100,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	複写使用料等	年報印刷費	500,000	第33号(2015年号)400部
年報販売	100,000		大会開催費	100,000	第34回大会
編集委員会残金	17,855	14年度分	役員・委員会費	350,000	役員・委員の旅費補助を含む
			事務局費	300,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び学会HP管理費を含む
			学会賞費	20,000	賞状等
			企画委員会費	160,000	非会員の旅費・謝礼を含む
			編集委員会事務局費	50,000	編集関係通信費等を含む
			国際交流費	100,000	
			震災関係特別委員会	100,000	
			社会学系コンソーシアム会費	10,000	
			予備費	2,869,753	
繰越金	3,486,898				
計	4,899,753			4,899,753	

## 2015年度臨時総会の記録

9月13日(日)、新理事会終了後の13時10分から臨時総会が開催されました。広田康生会長より以下の報告があり、承認されました。

1. 役員選出規定第6条に基づき、理事のうちから後藤範章、高木恒一、渡戸一郎を常任理事として指名した。
2. 理事のうち、各種委員会の委員長、副委員長、担当理事の分担は以下のとおり。

[企画委員会] 委員長：高木恒一理事、副委員長：高木竜輔理事

[編集委員会] 委員長：西村雄郎理事、副委員長：浅川達人理事、担当理事：早川洋行理事

〔国際交流委員会〕 委員長：玉野和志理事

〔学会賞選考委員会〕 委員長：渡戸一郎理事

〔社会学系コンソーシアム〕 担当理事：後藤範章理事

〔事務局〕 担当理事：山口恵子理事、事務局長：藤原法子

3. 各委員会担当理事を除く各委員会委員および日本都市社会学会若手奨励賞推薦委員については人選中であり、総計でかなりの数にのぼるので、会員各位のご協力を賜りたい。

## 第9回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品の紹介と選考理由

2015年度学会賞選考委員会（以下、委員会）は、学会規約第2条第3項ならびに学会賞（磯村記念賞）内規の定めるところにより、学会賞（磯村記念賞）の選考を行い、9月12日の第33回大会において1名の会員に授与した。以下、選考経過、選考結果、選考理由について報告する。

### 1. 選考経過

委員会では、学会賞（磯村記念賞）内規第5条の定める(1)会員の自薦・他薦、(2)学会事務局が会員を対象に行う文献調査に加えて、推薦委員による推薦によって作成された著作一覧をもとに、2013年1月から2014年12月末までに公刊された著書14件を審査の対象とした。2015年3月1日、8月1日の2回の委員会における審議の結果、次の1件を受賞作とすることに決定した。

### 2. 選考結果

園部雅久『再魔術化する都市の社会学』ミネルヴァ書房、2014年10月。

なお、同氏は前著『現代大都市論—分極化する都市？』で第3回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を受賞しているが、ダブル受賞を妨げないとの判断により2度目の受賞を決したものである。

### 3. 選考理由

本書は、脱工業都市における消費空間への再編と、そこに立ち現われている公共性の危機について、理論的、実証的に論じた都市社会学研究の意欲作である。「再魔術化」とはG.Ritzer、S.ZukinやJ.Hanniganなどにヒントを得た概念で、高度に合理化された現代の都市空間が、ファンタジーや夢、魔法の技法を通して人びとを魅惑する審美的な消費の空間に変容していることをさす。こうした変化の背景には都市社会の基軸となる階層構造の変化があるとされるが、これは前著から引き継がれた論点でもある。

本書の前半では1990年代以降の理論的展開が吟味される。それを踏まえた後半は、2000年代の日本都市における都市公園のネーミングライツをめぐる社会運動、ゲーテッド・コミュニティ開発をめぐる建設反対運動、都市再開発とホームレス問題という、3つの事例研究を通じて、排除の空間が拡大し、差異（不平等や異質性）への寛容性を低下させる方向が強まっていると指摘される。そして終章では、「従来の都市コミュニティ論に替わって、親密圏と公共性の差異を前提とした新しい公共性論を対置していくこと」が都市社会学の重要な課題として提起されている。

以上のように、本書は現代都市の空間変容の意味を鋭く問うている。もちろん都市空間変容のすべての局面を「再魔術化」する消費空間化に帰納できる訳ではない。またそのことは、結論部分がさらに多くの課題を派生させていることから指摘出来よう。しかしそれは本書の価値を貶めるものというよりは、本書の価値を高めているとも言える。本書は、今日的な問題設定にもとづく現代大都市の社会空間論として、都市社会学の発展に大きく貢献するものと評価され、学会賞にふさわしいものと判断される。

（日本都市社会学会賞選考委員長 渡戸一郎）

## 国際交流委員会報告

来年度の大会では、韓国地域社会学会の方々を招聘し、日本で学術交流を行うことになっています。韓国では平昌で冬季オリンピックが、日本では東京で夏季オリンピックが予定されておりますので、現在、「メガイベン

トと都市」というテーマで「日韓ジョイントセッション」を行えないか、韓国側に打診中です。まだまったく未定ではありますが、韓国側の事情も含めて、実りある交流ができるように進めていきたいと考えております。

ISA（世界社会学会）のRC21では、次の大会を2016年7月21日から23日までメキシコシティで行うことが決定しました。大会のテーマは次の通りです。

The transgressive city: Comparative perspectives on governance and the possibilities of everyday life in the emerging global city

セッションの概要が11月下旬に公開され、発表希望者のアブストラクトの締切は1月末の予定です。奮ってご応募ください。  
(国際交流委員会委員長 玉野和志)

## 企画委員会からのお知らせ

9月13日の第33回大会終了後、本年度の第1回企画委員会を開催し、大会の総括と反省を行いました。その後10月18日に第2回を開催し、次回大会の企画について協議しました。

シンポジウムは、第33回大会テーマ部会の成果を受けて都心再編をテーマとする方向で検討を進めることになりました。また、鈴木廣先生・奥田道大先生の御業績をどのように引き継いでいくかを考えるセッションを設ける方向で検討を進めることとしました。さらに、テーマ報告部会、韓国地域社会学会会員からの報告の企画などについても検討しました。各委員の役割分担を決定したので、今後、企画案を具体化していく予定です。詳しい検討状況は、次回学会ニュースでお知らせいたします。  
(企画委員会委員長 高木恒一)

## 編集委員会からのお知らせ

『日本都市社会学会年報』34号(2016年9月発行予定)に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」を募集しています。

投稿を希望される会員の方は、学会ホームページに掲載された投稿規定、執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2015年11月30日(消印有効)までに上記の編集委員会事務局あてに郵送して下さい(メール便は不可)。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

なお、9月大会から新たな編集委員会が発足し、論文投稿先が下記に変更されましたのでご注意ください。

〒739-8251 広島県東広島市鏡山1-7-1 広島大学 総合科学部 西村研究室内  
日本都市社会学会編集委員会事務局 西村雄郎  
E-mail : nisimura@hiroshima-u.ac.jp TEL : 082-424-6419

(編集委員会委員長 西村雄郎)

## 会員の皆様へのお知らせ

### 1. 会費納入のお願い

第33回大会に参加されず2015年度の年会費を納入されていない会員、および過年度の年会費の納入がすすんでいない会員の方には、学会費納入用の振り込み用紙を本ニュースに同封いたしました。お早めに納入くださいますよう、お願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、2009年1月に全国銀行データ通信システムに接続することにより、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名 .....	郵貯銀行	預金種類 .....	当座
金融機関コード .....	9900	口座番号 .....	0703976
店番 .....	019	受取人名 .....	ニホントシシャカイガツカイ
店名 (カナ) .....	〇一九 (ゼロイチキョウ店)		

## 2. 第34回大会について

第34回大会は、佛教大学で開催されます。

## 3. 理事会報告

### (1)2015年度第1回理事会報告

2015年度第1回理事会は、9月12日（土）静岡県立大学にて大会終了後に開催され、理事の役割が審議されました。詳しくは「臨時総会の記録」の項をご参照ください。

### (2)2015年度第2回理事会報告

2015年度第2回理事会は、9月13日（日）静岡県立大学にて11時より開催されました。

各種委員長からそれぞれの委員候補が確定したことが報告されました。委員は以下の通りです。

企画委員：高木恒一（委員長） 高木竜輔（副委員長） 五十嵐泰正 笹島秀晃 下村恭広 鈴木久美子  
速水聖子 松尾浩一郎 松宮朝 丸山真央 室井研二 文貞實

編集委員：西村雄郎（委員長） 浅川達人（副委員長） 早川洋行（担当理事） 高野和良 武田尚子  
徳田剛 三田泰雅 高畑幸 堤圭史郎 原田謙

国際交流委員：玉野和志（委員長） 齊藤麻人 魯ゼウオン 松宮朝 文貞實

学会賞選考委員会：渡戸一郎（委員長）

社会学系コンソーシアム委員：後藤範章（担当理事） 松菌祐子

### (3)2015年度第3回理事会報告

2015年度第3回理事会は、10月18日（日）13時30分より専修大学神田校舎にて開催されました。

1. 企画委員会報告、2. 編集委員会報告、3. 国際交流委員会報告（韓国側の招聘による部会企画について）、
4. 学会賞選考委員会報告（日程と委員、推薦委員の確認）のほか、事務局担当理事、会長より①学会規約の修正について、②海外データベースへの参加について、③学会HP上での会員情報の変更等について審議され、学会ニュースの発行、第34回大会等についての報告をしました。（事務局担当理事 山口恵子）

## 第6回日本都市社会学会若手奨励賞候補の文献調査および推薦に関するお願い

日本都市社会学会若手奨励賞内規にもとづき、文献調査を行います。あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。若手奨励賞は「著書の部」と「論文の部」に分け、それぞれについて選考を行います。多くのみなさんからの応募をお待ちしています。

対象：今回、対象となるのは、

(1)2014年1月から2015年12月末日までに公刊された著書・論文であって、

(2)公刊時点で、著者が、博士（後期）課程入学後10年以内であった、日本都市社会学会会員の研究業績です。

文献調査：上記の基準を満たす著書・論文を発表した若手会員は、同封の調査用紙に所定事項を記入の上、2016年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦：上記の基準を満たす著書・論文のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する、将来性に富み、奨励に値する、優れた研究業績」をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。なお、他薦であって、上記の対象基準(2)を満たしているかどうかを確認できない場合には、その旨の注記をお願いいたします。

同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項を記入の上、2016年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。  
宛先/問い合わせ先：学会事務局の住所は、本ニュース1頁目にあります。お手数ですが、送料は自己負担でお願いいたします。またこの件についてのお問い合わせは、学会事務局までe-mailでお願いします。

選考対象のリスト作成は、若手会員自身による文献調査報告や自薦がまずは基本となります。該当される方は、ぜひとも積極的にご対応下さい。なお、若手奨励賞用の調査用紙・自薦他薦用紙は学会webサイトからダウンロードできますので、ご活用ください。  
(日本都市社会学会賞選考委員長 渡戸一郎)

## 会員異動

新入会員 (2015年9月12日理事会承認)

<関東地区>

石田光規 早稲田大学大学院

谷 優希 専修大学大学院

<中部・関西地区>

古田全宏 大阪市立大学大学院

## 学会事務局より

- ◆第33回大会は、無事開催することができました。開催校の高畑幸会員をはじめ関係者の皆様に、事務局からあつく御礼申し上げます。
- ◆第33回大会に参加された会員の皆様には「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封いたしました。
- ◆第33回大会に参加されなかった会員の皆様で、2014年度までの会費納入者の方には『日本都市社会学会年報33号』と「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封いたしました。なお、2015年度の年会費を未納の方は、同封の「振込用紙」にて、お振込くださいますよう、よろしく願いいたします。
- ◆第33回大会に参加されなかった会員の皆様で、2014年度までの会費に未納分がある方には、「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封し、『日本都市社会学会年報33号』は同封していません。未納分をお振込みいただき次第、お支払いいただいた年度の翌年発行の年報をお送りさせていただきますので、同封の「振込用紙」にてお振込くださいますよう、よろしく願いいたします。
- ◆第34回大会を、2016年9月10日(土)、11日(日)に、佛教大学にて開催いたします\*。詳細につきましては、次号の学会ニュース、および学会HPにてお知らせする予定です。  
\*来年度の大会は、9月3日(土)、4日(日)に変更いたします。ご注意のほどお願いいたします  
(2015,12,14事務局追記)。
- ◆学会事務局の移転について、2015年度から2年間、学会事務局が東京学芸大学教育学部山口恵子研究室におかれることになりました。なお、学会ニュース1ページ目に新事務局の連絡先が掲載されていますが、会員の皆様からのお問い合わせやご連絡に関しては、前学会事務局同様、e-mailにてお願いできましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。  
(事務局担当理事 山口恵子)